

道野初美さん (69)
Michino Hatsumi
 青垣町惣持

小高千恵さん (14)
kodaka chie
青垣中学校 2 年生

わたらい
渡会克男さん (63)
watarai katsuo
千葉県柏市

蘆田妃菜さん (12)
ashida hina
青垣中学校 1 年生

一般の部
『まごころ
丹の里賞』



今私は夢の中？
青い空と流れる雲、山々や
田畑を通る緑の風、小川のせ
せらぎ、夜は虫の音と無数の
星、蛍や梅花藻に感動し四季
の移ろいを肌で感じている。
都会から青垣に移り住み八年。
丹波布にめぐり会い、地元
の方々とボランティア。
心地良い毎日。夢なら覚め
ないで!!
澄みきった空気を胸一杯吸
って、丹波の人々と自然にあ
りがとう。
そして移住に賛成してくれ
た大切な主人に、ありがとう。

小・中・高校生の部
『^{まごころ}丹の里賞』



私は、今のなにげなく過
している毎日が大好きです。
友達と楽しく過ごせる学
校生活「ただいま」と言
うと「おかえり」と返って
くる幸せな家庭生活。そんな
生活ができる時代に、場所
に生んでくれたお母さんに
感謝の気持ちでいっぱい
です。いつもは素直になれ
なくてごめんなさい。本当
に「ありがとう」

これから幸せな毎日を精
いっぱい過ごしていきます。
「ありがとう」の気持ちと共
に・・・。

一般の部
『大賞』



「バカヤロー！」

ロック歌手を目指し、髪を赤や紫に染め歌って踊るキリギリスであった息子が、やっと定職に就いて初月給の日「日頃の感謝の気持ちだ」と言って、リボンで飾った箱をくれた。

早速包みを開いてみると、中は育毛剤だった。

「バカヤロー！」と怒鳴る私に首をすくめ、けれど息子は至極真面目な顔で言った。

「オヤジの頭は俺の未来なんだよ」

私が怒鳴ったのは育毛剤ではない。『ありがとう』の涙の処理に困ったからだ。

小・中・高校生の部
『大賞』



私は、六年間お世話になったランドセルに「ありがとう」と言いたいです。

入学祝に祖父と祖母に買ってもらったランドセル。買ってもらった時はとても大喜びしました。

時々、弟とけんかでふまれたりしたけどちゃんとたえてくれました。

雨の日も晴れの日も毎日一緒に学校に行ってくれました。

一年生はとても大きく感じたのに六年間で小さくなった気がします。

六年間おつかれさまでした。そして、ありがとう。



①「小・中・高校生の部」で大賞を受賞した蘆田妃菜さん②入選を受賞したみなさん③400人を超える参加者が表彰式を見守りました④「一般の部」で大賞を受賞した渡会克男さん⑤女優 小山明子さんが、夫であり映画監督の故・大島渚さんとの思い出を語りました

Thank you message 「ありがとう」が溢れるまちに
第2回全国公募「^{まごころ}丹の里ありがとう大賞」表彰式

春日文化ホールで、3月9日（土）、第2回全国公募「丹の里ありがとう大賞」表彰式が行われ、「あのとき言えなかったありがとう」をテーマに、全国から寄せられたありがとうメッセージの入賞・入選作品が発表されました。

第2部では、映画監督 故・大島渚さんの妻で女優の小山明子さんが、17年に及んだ夫の介護生活を振り返るトークショーも行われました。

「あのとき言えなかったありがとう」

「ありがとう」の言葉がもつ力によって、人と人の絆や地域と地域のつながりを深めたい。そんな思いを込めて、市では、平成22年度から「ありがとうプロジェクト」を推進しています。本年度は、全国37の都道府県から610点の心温まるメッセージが集まりました。

「丹の里ありがとう大賞」表彰式では、400人を超える参加者が見つめるなか、「小・中・高校生の部」「一般の部」それぞれ、「大賞」1点・「丹の里賞」1点・入選13点（合計30点）が発表されました。

丹波市長は、「豊かになった現在、感謝の心が失わ

れつつある。ありがとうの言葉が溢れ、ぬくもり感じられるまちをめざしたい」とあいさつ。続いて、入賞・入選を果たしたみなさんには、市長と村上信夫審査委員長から表彰状と丹波のおいしいものを詰め合わせた記念品が贈られました。

第2部では、今年の1月に亡くなられた映画監督 大島渚さんの妻で女優の小山明子さん（78）と村上信夫さんによるトークショーが行われました。大島さんが脳出血で倒れて以来、自身のうつ病と闘いながら夫の介護に専念した日々を振り返りました。

スクリーンには、50年間連れ添った夫との思い出の写真が映し出され、結婚に至る



(撮影：鶴崎燃)

審査委員長
村上 信夫
(元NHKエグゼクティブアナウンサー)

「ありがとう」という言葉を口にする。「ありがとう」の気持ちになれる。だが、言い出しかねた「ありがとう」もたくさんある。いま改めて口にする「ありがとう」の数々が、たくさん寄せられた。

特に印象に残ったのは、
蘆田妃菜さんが、小学校で

6年間使ったランドセルに言う「ありがとう」。また、都会から丹波に引つ越し、丹波の人と自然に「ありがとう」を言う道野初美さんの作品も素晴らしい。

みなさんの「ありがとう」を声に出して読むと、いろんな気づきや忘れかけていたものを教えてもらえる。

— 審査を終えて —
嬉しい気持ちにしていたきました



「夫婦間の信頼関係を築いて来られたから、17年間もの介護生活を乗り越えられた」と語る小山明子さん(写真右)